

## 平成28年度事業実績報告

平成28年度の事業計画の下、次の事業を実施した。

### 1. 会議の開催

(1)総会を平成28年5月20日(金) メルパルク東京において開催した。

(2)理事会

第1回理事会 平成28年 5月20日(金)

第2回理事会 平成28年 5月20日(金)

第3回理事会 平成28年 7月4日(月)

第4回理事会 平成28年10月31日(月)

第5回理事会 平成29年 3月27日(月)

(3)各部会役員会を各部会年3～5回開催した。

### 2. 事業の実施

平成26年6月に花き業界が連携して要望してきた「花きの振興に関する法律」が制定されたことから、当協会の事業も従来からの活動に加えて、全国花き振興協議会(全花協)その他と連携し「国産花きイノベーション推進事業」等を活用し以下のような活動を展開した。

#### (1) 花き消費増大事業

ア. 「花き日持ち性向上対策実証事業」を当協会が事業実施主体となり、JFTDが共同実施機関となり、その他各地の産地・卸売市場・仲卸・花店等のご協力を得て、日持ち性に関する委託研究(18機関・農研機構、大学、都道府県農試)、切花の夏期・秋期の日持ち実証試験、鉢物の日持ち試験方法開発のための試行、日持ち性に関する産地実態調査、日持ち性向上生産管理基準の策定と認定制度の検討、全国6カ所での日持ち性向上セミナーなどを実施した。成果は印刷物にして全国に配布した。JAS法の改正が計画されており、日持ち性向上生産管理基準を基に花きの日持ち性向上JASの実現に向けて準備活動を開始した。

イ. 全花協が事業実施主体となり、国産花きイノベーション推進事業「くらしに花を取り入れる新需要創出事業」を昨年度に引き続き実施した。日常生活における花きの利用増進を図るため、Flower Biz(月曜日のオフィスに花・緑を)、Flower Friday(金曜日の家庭に花・緑を)をキーワードに普及を図ることとし、各地で異業種と連携した講演会やイベントの開催、マスコミとの連携やポスター・リーフレットの配布等を実施した。

ウ. 全花協が内閣官房の公募に応募して、「オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査に係る試行プロジェクト」を受託し、日本いけばな芸術協会と連携して「いけばなJOINプロジェクト」として成田空港での展示、特別養護施設でのいけばな教室等を実施した。

エ. 全国花き品評会における優秀作品(洋らん部門、シクラメン部門)の展示、販売等を通じて消費者等に優秀な花きへの関心を高め、消費拡大を図った。

オ. 華道家・假屋崎省吾氏の展示会に、当協会部会から花材を提供・協力して花きのPRを図った。28年10月1日～16日に目黒雅叙園での展示会(最終回)に輪ぎく部会、球根・切花部会が花材の提供協力を行った。

カ. 部会活動の中で、花きの消費増大のための活動を広範に展開した。

(ア) 奈良東大寺花まつり(仏生会)に対し、輪ぎく、スプレーぎく、カーネーション、ガーベラ各1,000本を提供した。一般観光客等の花への理解と関心を深めた。

(イ) 物日商品情報交換会(春のお彼岸用切花、母の日用切花・鉢物、お盆用切花、秋のお彼岸用切花、年末・クリスマス用鉢物、正月用切花)が一般社団法人日本花き卸売市場協会主催で開催され、各部会から積極的に参加して花き需給の安定・消費増大に努めた。

(エ) フラワーバレンタインデー、母の日、父の日等全国鉢物消費拡大プロジェクトに参加し消費増大に努めた。

(オ) その他、全国研修会で作成したスプレーマムブーケを東京都庁に持参し、オリンピック等での利用を要請(スプレーぎく部会青年部)、各地から選定された6名のリリーエンジェルによるユリのプロモーション活動(球根・切花部会)、東京ドームでの世界らん展への出展や世田谷市場祭りへの参加(日本洋蘭生産協会)など、花き消費増大に向けた取組を実施した。

## (2) 表彰事業

全国の花き団体、都道府県、出荷団体等が開催する花きの品評会、イベント等に対し協賛・後援を行うとともに、生産協会会長賞の交付及び記念品を贈呈して優秀な花きに対し顕彰を行うことにより、花きの生産振興と優良な花きの普及啓発に努めた。

## (3) 研修交流等事業

ア. 今年度は生産者大会の開催がなかったことから、部会活動を主体とする花きの生産、経営、流通の改善に関する効果的な研修(研究)交流事業を実施するための企画運営への支援を行った。

イ. 部会活動における研修(研究)交流事業

全国の花き生産者相互の交流や卸売・小売事業者との交流を通じて、花き生産者の生産、経営、流通の改善に関する研修(研究)交流活動を広範に実施した。

(ア) 輪ぎく部会：平成28年度輪ぎく部会リーダー研修会を平成28年11月15日(火)～16日(水)に東京都において開催し、約130名の生産者や関係者が参加し「輪ぎくの今後の葬祭需要について」と題した講演を聞いた後、分科会に分かれての討論と総合討議を行った。また、青年部全国研修会を平成28年10月31日(月)～11月1日(火)に豊橋市で開催し、約90名の生産者や関係者が参加し「花店から見た輪菊の現状と今後の方向と需要拡大」と題した講演を聞いた後、分科会に分かれて「これからの消費拡大と発展について」「経営及び栽培の取組と相談」のテーマで意見交換を行った。

(イ) スプレーぎく部会：平成28年度スプレーぎく部会リーダー研究会を平成28年9月5日(月)～6日(火)に開催し、約70名の生産者や関係者が参加して、「スプレーマムの現状と今後の可能性」「花店から見たスプレーマムの魅力」と題した講

演を聞き、2日目は夏秋系新品種の試作について各県ごとに事例報告を行い、「夏秋系スプレーマムの評価と普及の可能性などについて」というテーマでパネルディスカッションを行った。平成28年度スプレーぎく部会青年部全国研修会を平成28年11月17日(木)～18日(金)に東京都で開催し、約50名の生産者や関係者が参加して、「スプレーぎくの消費拡大について」「えそなどスプレーぎくの病気について」と題した講演を聞き、2日目は生産者がスプレーマムのブーケ作りの指導を受けて作成し、解散後に役員でフラワーブーケを持って東京都議会を訪問し、オリンピック等での使用を要請した。

(ウ) 日本ばら切花協会：第59回ばら切花品評会を平成28年5月12日(木)～14日(土)に西武プリンスドーム(第18回国際バラとガーデニングショウ会場内)で開催した。また、第47回全国ばら切花研究大会横浜大会を平成28年11月4日(金)～5日(土)を横浜市で開催した。

(エ) カーネーション部会：第53回全国カーネーション長崎大会を平成29年1月26日(木)～27日(金)に諫早市において「仲間と描く カーネーションの未来 築いていこう ロマンの街 長崎から」をスローガンに、約320名の参加の下に開催した。2名の功労者表彰の後「究極のカーネーションを求めて」と題した講演を聞き、「これからのカーネーション経営について」というテーマでパネルディスカッションを行った。2日目は、雲仙市と諫早市の圃場を見学した。

(オ) 球根・切花部会：平成28年度球根・切花部会通常総会・リーダー研修会を平成28年6月2日(木)に東京都において、約40名の生産者等が参加して開催した。「花業界のトレンド～チューリップ・ユリを求めて～」 「花き業界の展望」について講演を聞き、意見交換を行った。

(カ) 鉢物部会：平成28年度全国鉢物研究会を平成29年1月30日(月)～31日(火)茨城県水戸市において約120名の生産者等の参加の下に開催した。「日本の花き産業は成長産業になれるか」と題した講演を聞いた後、「花き産業の健全なる成長のためには」というテーマでパネルディスカッションを行った。2日目は茨城県内の圃場視察等を行った。

(キ) 日本洋蘭生産協会：第19回日本洋蘭生産協会愛知大会を平成29年1月25日(水)～26日(木)に開催した。豊明花き(株)での全国花き品評会洋らん部門の品評会を見学の後、大会式典が開催された。2日目は洋蘭の日持ち性向上セミナーが開催され、「今後の物流について～日持ち性向上を考慮した～」と題する基調講演を聞いた後に、「日持ち性に影響を及ぼす要因分析、並びに日持ち性向上の方策」をテーマにパネルディスカッションを行った。

ウ. 平成28年度全国花き品評会(洋らん部門・シクラメン部門)の開催

全国花き品評会・洋らん部門は平成29年1月25日(水)に愛知豊明花き地方卸売市場豊明花き株式会社において、同社の協力を得て開催した。全国から210点の出品があり、金賞50点を選びこのうち上位30点に特別賞を、10点にベストオブカテゴリー賞を授与した。出品作品は審査終了後市場に展示、即売された。

また、同品評会・シクラメン部門を平成28年11月23日(水)東京都中央卸売

市場大田市場花き部（株）フラワーオークションジャパン（F A J）において、同社の協力を得て開催した。全国から365点の出品があり、16点に特別賞を授与した。出品作品は審査終了後市場に展示、即売した。

#### （4）調査研究事業

28年度国産花きイノベーション推進事業に応募し、「関東地域花き鉢物広域流通施設整備に関する調査研究」を受託して実施した。平成26年度に当協会が実施した「花き鉢物流通合理化に関する調査研究」で、独力で集荷可能な東京市場の卸売会社ルートに加え、埼玉県鴻巣付近に郊外型の共同荷受けタイプの物流拠点機能を設立する案を提言したが、今回はその具体化に向けた整備運営の可能性、期待される機能と広域流通の改善効果等について調査検討を行った。埼玉県内の鉢物生産者の意向調査を行った結果、当面物流問題は起きていない、コストが安くなるなら利用する、具体的なプランが示されないと検討できない等の慎重な回答が多かったため、更に構想を整理して既存の市場等で試行調査を実施してみるのが望ましいと考えられた。他方、卸売市場のニーズの調査を行った結果では、切花鉢物共同荷受け所、加工の受託、切花専用市場への鉢物集荷の拡大などの具体的ニーズがあることが明らかになり、これらを踏まえて、鉢物の物流合理化と消費拡大に寄与する可能性の高い拠点構想を取りまとめることが出来た。

#### （5）活動支援事業

（財）日本花普及センターが行う花きのコード取引を推進する「日本花き取引コード普及促進協議会」、花きの輸出拡大の協議を行う「花き輸出拡大協議会」、花育マニュアルの作成等を行う「全国花育活動推進協議会」等への活動支援を行った。

また、全国でも有数の出品点数を誇る関東東海花の展覧会に対し協力を行った。

#### （6）花き情報の連絡、指導等事業

花き生産者の生産と経営改善、花き流通改善等について、関係者への要望、陳情等を行うとともに、その結果を各都府県花き連等に連絡した。

ア. 会員の意見を募り「花き生産振興に関する要望書」を取りまとめて、平成28年10月14日に当協会三役で自由民主党の小泉進次郎農林部会長、河村建夫フラワー産業議員連盟会長を訪問して要望書を提出した。また、同日、農林水産省を訪問して山本農林水産大臣ほか関係局長、担当課長あての要望書を提出した。同要望書では、（ア）卸売市場手数料の見える化と受益に応じた負担の公平化、（イ）卸売市場の倒産に備えた生産者保護措置の拡充、（ウ）農振除外に関する制度の運用改善、（エ）施設園芸省エネ設備の支援事業（意欲ある事業者への支援強化）、（オ）生産コスト低減対策の推進について要望した。また、これに関し、10月21日に自由民主党「農林水産業骨太方針策定プロジェクトチーム」において、当協会からの卸売市場手数料に関する要望を会長、副会長から説明した。

イ. 平成30年1月30日付日本農業新聞で大田花きの委託手数料改定（委託手数料を9.5%から8%に引き下げて新たに「荷扱い料」50円又は100円を徴収する。

4月1日から実施）の突然の報道がなされ、実質的に数パーセントの値上げとなる鉢物部会関係者を中心に情報収集、大田花きへの質問書の送付と回答受領、農林水産省担当部局への指導要請、農林水産副大臣への要請等を行った。3月24日に当協会役員で大

